

2011 年度

葉月講 旗本夫人が見た江戸のたそがれ

8 月(葉月)講についてお知らせします。話題を呼んだ「旗本夫人が見た江戸のたそがれ—井関隆子のエスプリ日記」(文春新書)の著者で昭和女子大名譽教授の深沢秋男先生に講演をお願いしました。バツイチで酒好きの旗本夫人が残した日記には大奥の秘密事項から天保改革への痛烈な批判などが綴られていて興味津々の連続。それにどっぷり浸ってしまった深沢先生の講演は面白いこと間違いなし!

旗本夫人が見た江戸のたそがれ

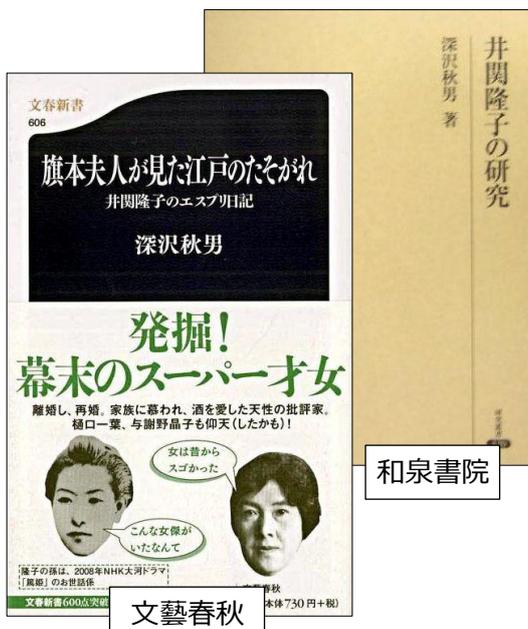
井関隆子のエスプリ日記

江戸幕府が改革か衰退かの選択を迫られた天保年間、女ざかりの日々の出来事を日記に綴った井関隆子という旗本の妻がいた。天保11年(1840)から4年間の膨大な日記は、著者の長年の研究で日の目を見た。

大奥の受付にあたる広敷用人に出世した義理の息子親経(ちかつね)は將軍家斉(いえなり)との公私の接点を持ち、孫の親賢(ちかかた)は世子家慶(いえよし)の小納戸(雑務係)を勤め、城内の情報が入ってくる。隆子日記の豊富なトピックはあちこちに張りめぐらされたアンテナ網から提供されていたのである。

講師紹介 深沢秋男(ふかさわあきお)

昭和10年山梨県生れ。昭和37年法政大学文学部日本文学科卒業。昭和女子大名譽教授。著書に『井関隆子の研究』など。



和泉書院

文藝春秋



開催日時: 8月20日(土) 15時~17時

開催場所: 日本橋伊場仙ビル7階

参加費: 1000円

終了後講師を交えて懇親会を予定

JR 総武本線新 日本橋駅(5番出口)徒歩6分

地下鉄銀座線・半蔵門線 三越前駅